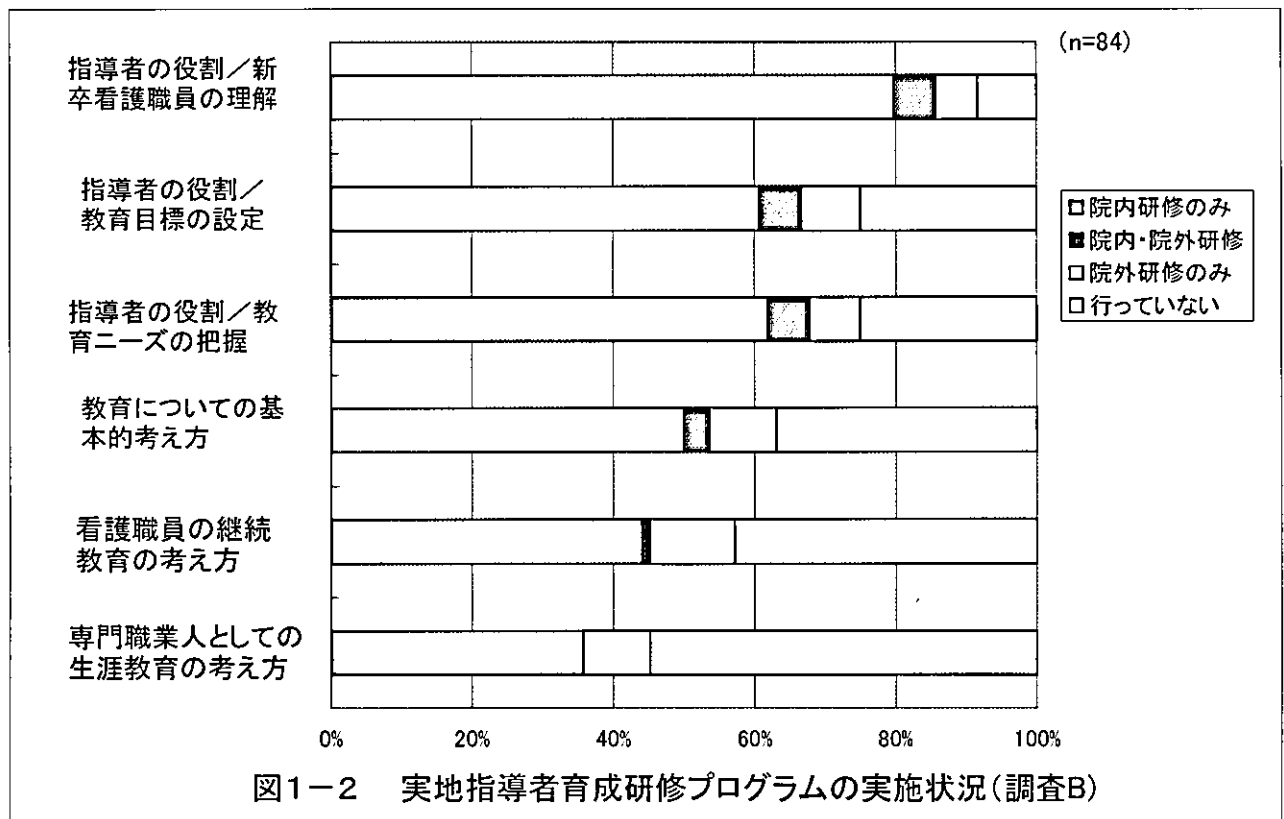
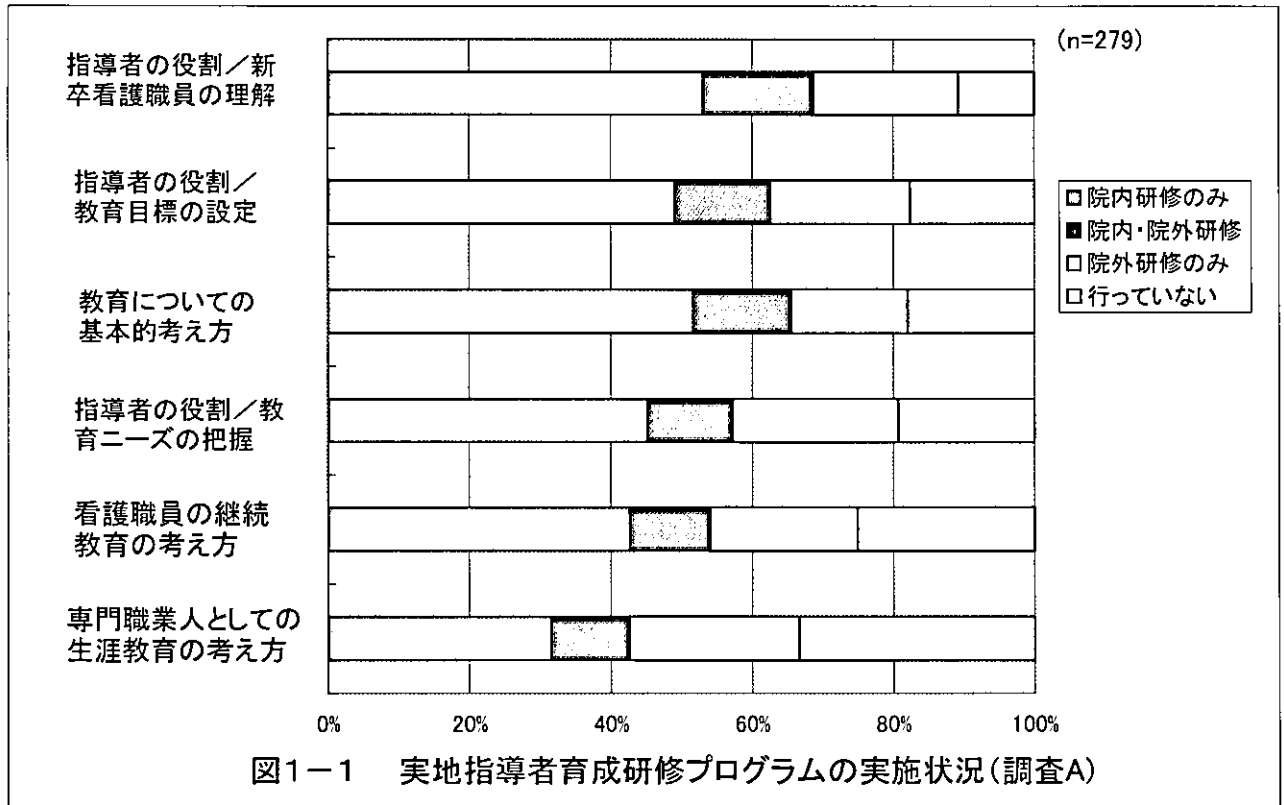
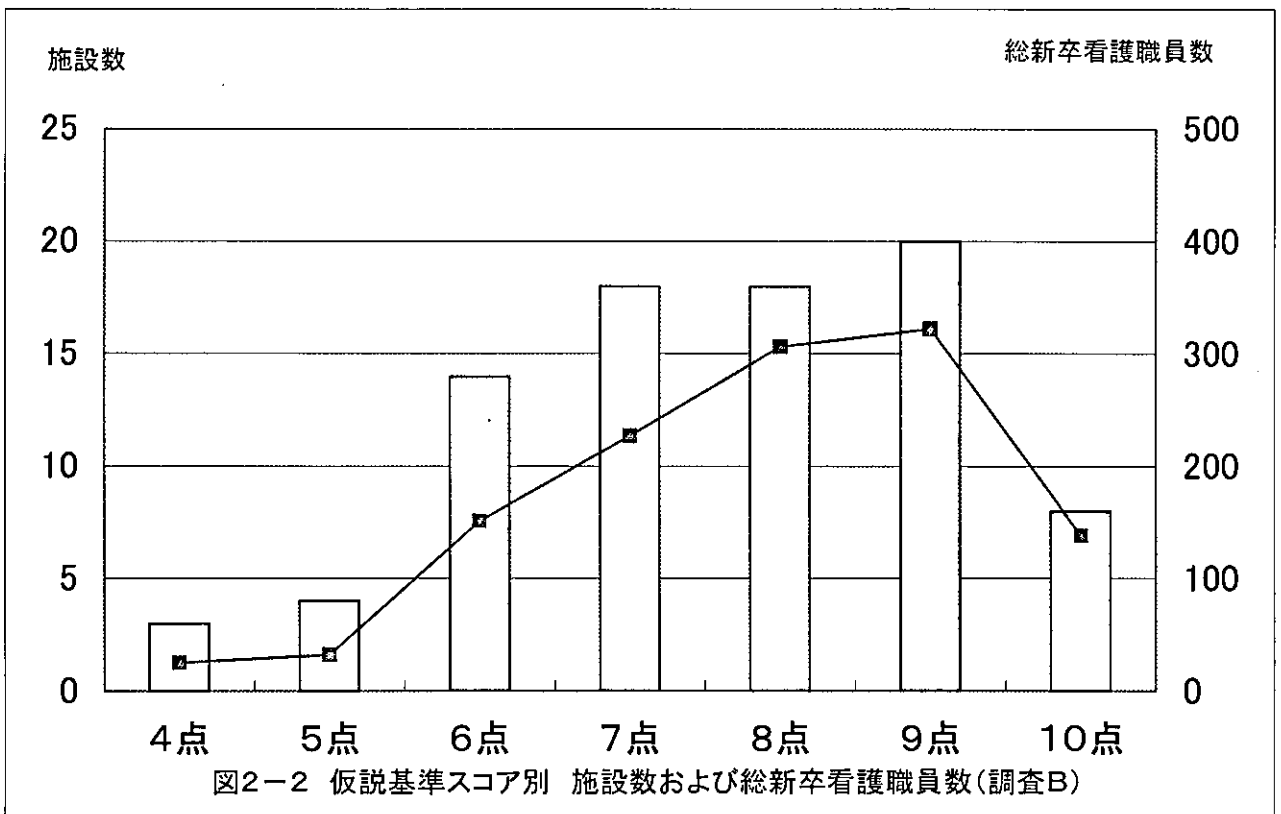
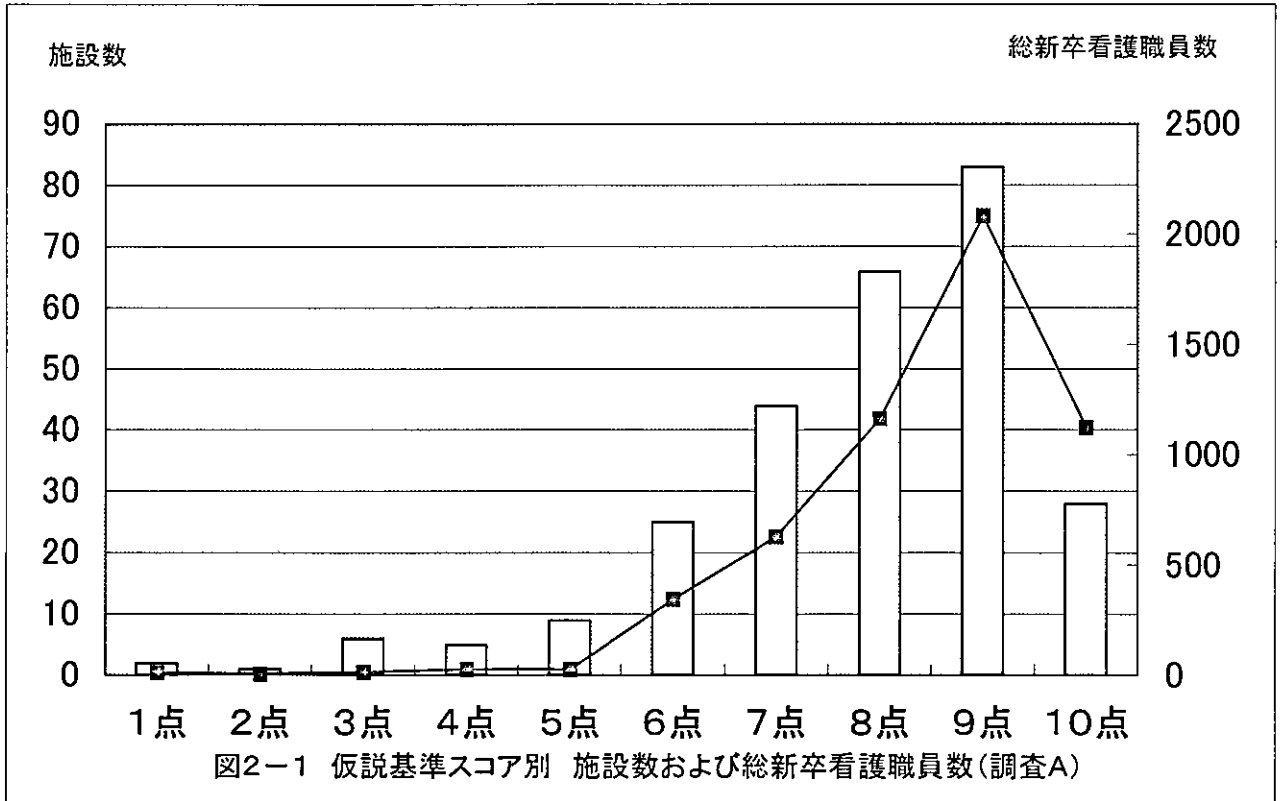


图 表





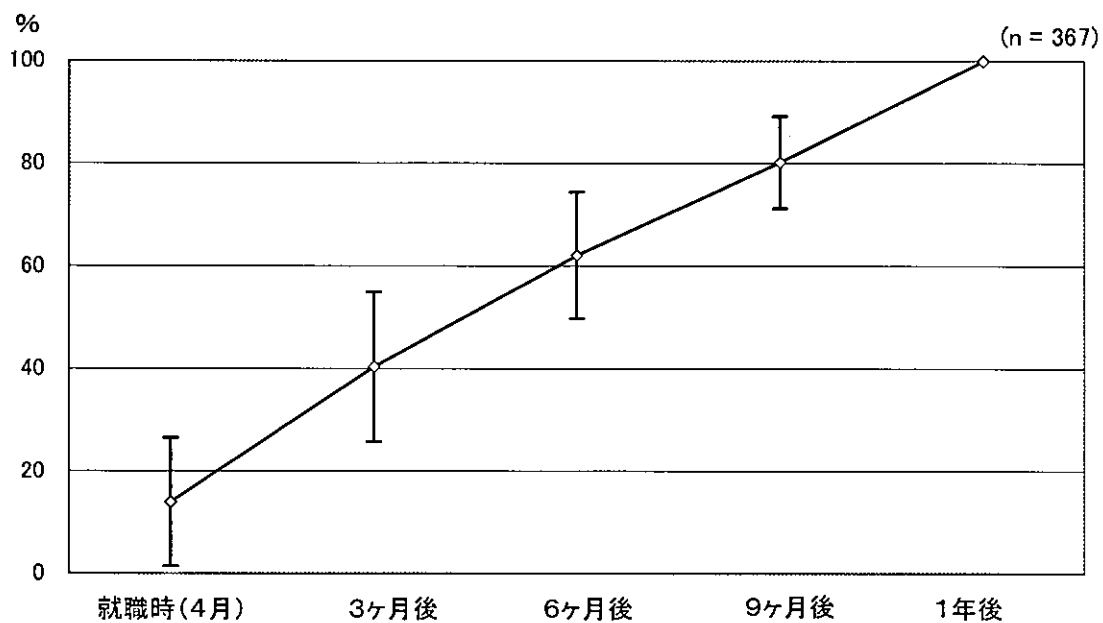


図3-1 新卒看護師の看護ケア能力の伸び(平均値:調査A)

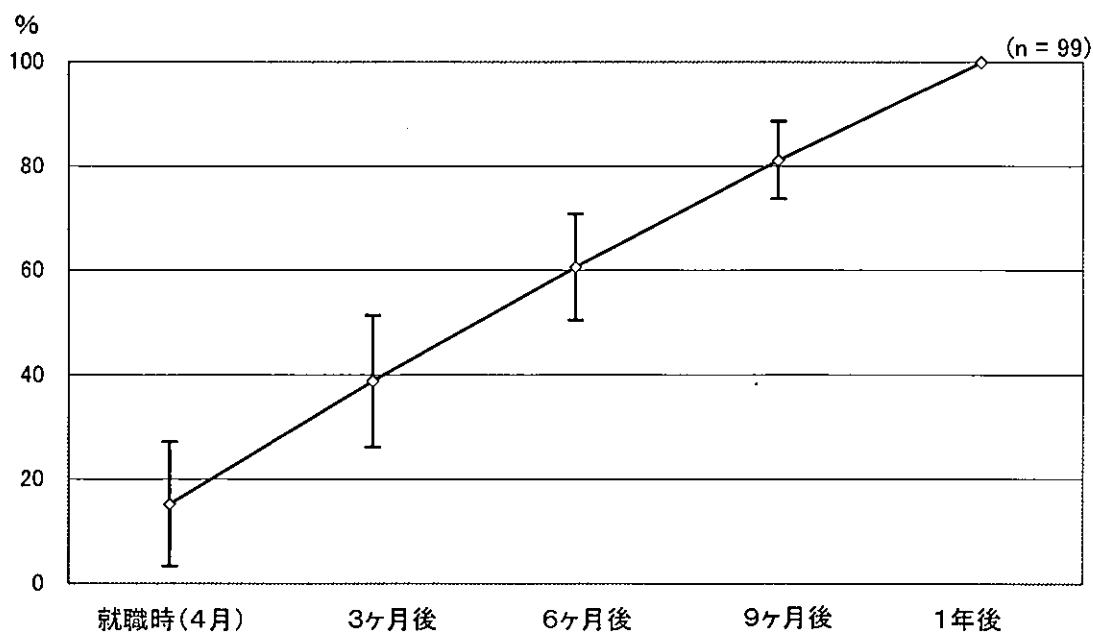


図3-2 新卒看護師の看護ケア能力の伸び(平均値:調査B)

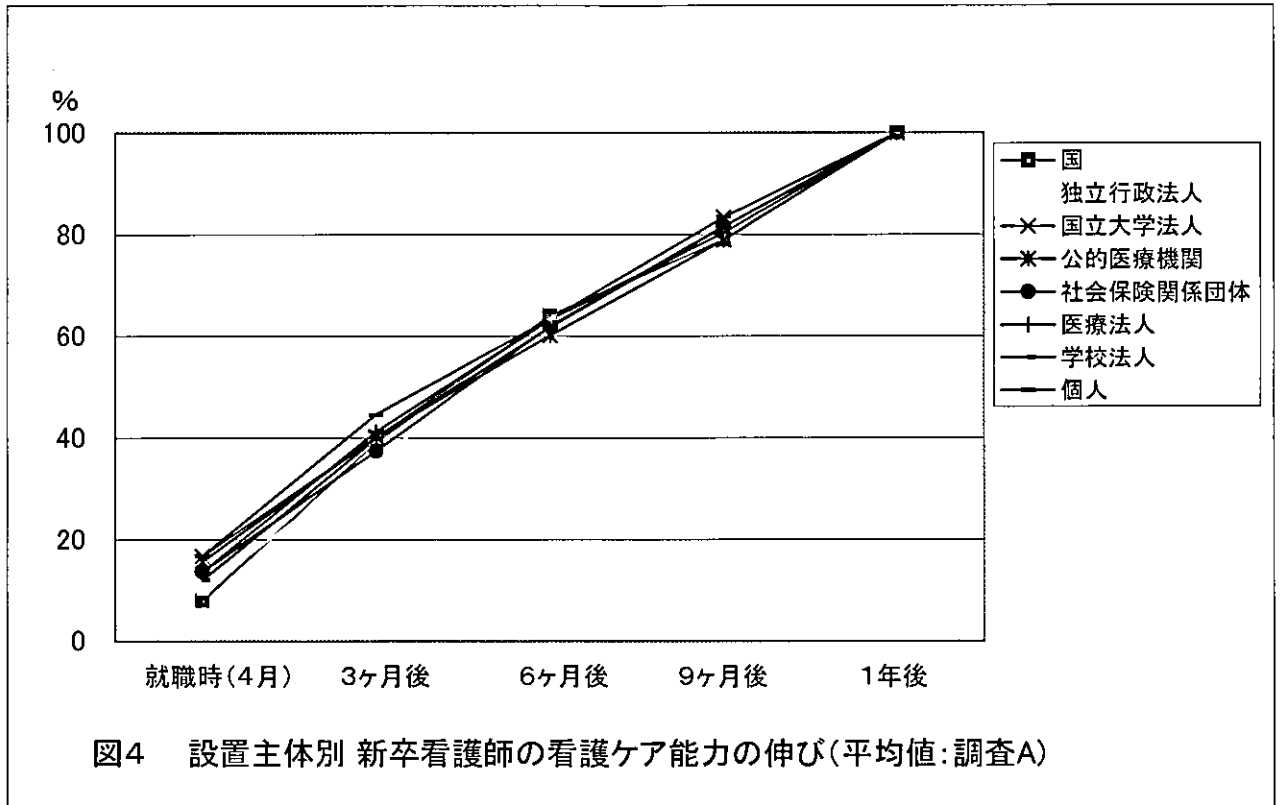


表1-1 所在地（調査A）

4都府県	施設数	全体(%)	都府県別回収率
東京都	148	(33.9)	(22.8)
神奈川県	80	(18.6)	(22.7)
大阪府	117	(26.8)	(21.1)
兵庫県	87	(19.8)	(24.0)
無回答	8	(0.9)	-
合計	440	(100.0)	

表1-2 所在地（調査Bの分析対象）

国立病院機構	施設数	全体(%)	ブロック別回収率
北海道東北	16	(14.7)	72.7
関東信越	18	(16.5)	52.9
東海北陸	13	(11.9)	59.1
近畿	15	(13.8)	75.0
中国四国	21	(19.3)	84.0
九州	20	(18.3)	71.4
無回答	6	(5.5)	-
合計	109	(100.0)	

表2 設置主体（調査A）

4都府県	施設数	全体(%)	設置主体別回収率
国	5	(1.1)	(31.3)
独立行政法人	13	(3.0)	(65.0)
国立大学法人	4	(0.9)	(57.1)
公的医療機関	87	(19.8)	(54.4)
社会保険関係団体	16	(3.6)	(42.1)
医療法人	198	(45.0)	(17.5)
学校法人	27	(6.1)	(51.9)
その他	88	-	-
無回答	2	-	-
合計	440	(100.0)	

表3 施設の特徴 ※複数回答

	n=440		n=109	
	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
特定機能病院	27	(6.1)	14	(12.8)
地域医療支援病院	182	(41.4)	47	(43.1)
臨床研修病院	150	(34.1)	39	(35.8)
日本医療機能評価機構認定	165	(37.5)	18	(15.6)

表4-1 病床規模（調査A）

4都府県	実数	全体(%)	規模別回収率
20～49床	29	(6.6)	(11.6)
50～99床	71	(16.1)	(13.5)
100～199床	118	(26.8)	(21.9)
200～299床	49	(11.1)	(23.4)
300～399床	69	(15.7)	(37.7)
400～499床	37	(8.4)	(38.1)
500床以上	66	(15.2)	(48.2)
無回答	1	(0.2)	-
合計	440	(100.0)	
平均	289.1		
実数合計	126932		

表4-2 病床規模（調査B）

国立病院機構	実数	(%)
20～49床	0	(0.0)
50～99床	0	(0.0)
100～199床	10	(9.2)
200～299床	20	(18.3)
300～399床	34	(31.2)
400～499床	27	(24.8)
500床以上	18	(16.5)
無回答		
合計	109	(100.0)
平均	370.5	
実数合計	40380	

表5 許可病床数

	n=439		n=109	
	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
一般病床	93370	(73.6)	31114	(77.1)
療養病床	11603	(9.1)	1636	(4.1)
精神病床	15711	(12.4)	3735	(9.2)
感染症病床	243	(0.2)	18	(0.0)
結核病床	1716	(1.4)	2790	(6.9)
無回答・その他	4289	(3.4)	1087	(2.7)
合計	126932	(100.0)	40380	(100.0)

表6 病棟数

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
4 病棟以下	197	(44.8)	9	(8.3)
5 ~ 9 病棟	145	(33.0)	71	(65.1)
10 ~ 14 病棟	38	(8.6)	24	(22.0)
15 ~ 19 病棟	17	(3.9)	3	(2.8)
20 ~ 29 病棟	20	(4.5)	0	(0.0)
30 ~ 42 病棟	3	(0.7)	0	(0.0)
無回答	20	(4.5)	2	(1.8)
合 計	440	(100.0)	99	(100.0)

表7 入院患者数

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
29 名以下	18	(4.1)	0	(0.0)
30 ~ 49 名	21	(4.8)	0	(0.0)
50 ~ 99 名	89	(20.2)	1	(0.9)
100 ~ 199 名	101	(23.0)	15	(13.8)
200 ~ 299 名	70	(15.9)	38	(34.9)
300 ~ 399 名	51	(11.6)	31	(28.4)
400 ~ 499 名	25	(5.7)	11	(10.1)
500 名以上	51	(11.6)	9	(8.3)
無回答	14	(3.2)	4	(3.7)
合 計	440	(100.0)	99	(100.0)
平均	250.5	-	316.2	-

表8 a 患者満足度調査

実施の有無	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
行っている	289	(65.7)	96	(88.1)
行っていない	143	(32.5)	12	(11.0)
無回答	8	(1.8)	1	(0.9)
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表8 b 看護に関する項目の有無

看護に関する項目	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
含んでいる	276	(95.5)	96	(100.0)
含んでいない	9	(3.1)	0	(0.0)
無回答	4	(1.4)	-	-
合 計	289	(100.0)	96	(100.0)

表9 看護マニュアルの整備状況

	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
十分整っている	133	(30.2)	23	(21.1)
まあまあ整っている	277	(63.0)	85	(78.0)
あまり整っていない	26	(5.9)	1	(0.9)
無回答	4	(0.9)	-	-
合計	440	(100.0)	109	(100.0)

表10 看護実習生の受け入れ

	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
受け入れている	253	(57.5)	99	(90.8)
受け入れていない	185	(42.0)	9	(8.3)
無回答	2	(0.5)	1	(0.9)
合計	440	(100.0)	109	(100.0)

表11-1 看護職員数(調査A)

n=439

4都府県	常勤人数	非常勤人数 (常勤換算)	16年度採用人数	新卒者採用人数
①看護師	61832	2814	8097	5697
②保健師	389	13	99	87
③助産師	2931	106	339	251
④准看護師	6388	1047	516	190
合計	71540	3980	9051	6225

表11-2 看護職員数(調査B)

n=108

国立病院機構	常勤人数	非常勤人数 (常勤換算)	16年度採用人数	新卒者採用人数
①看護師	17394	669	2036	1339
②保健師	3	0	2	2
③助産師	471	8	55	39
④准看護師	1224	63	40	7
合計	19092	740	2133	1387

表 1 2 平均勤続年数

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
3 年未満	17	(3.9)	1	(0.9)
3～6 年未満	154	(35.0)	11	(10.1)
6～10 年未満	140	(31.8)	37	(33.9)
10～15 年未満	59	(13.4)	38	(34.9)
15～20 年未満	9	(2.0)	11	(10.1)
20～25 年未満	3	(0.7)	2	(1.8)
30 年以上	5	(1.1)	0	(0.0)
無回答	53	(12.0)	9	(8.3)
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)
平均	7.2		10.4	

表 1 3 - 1 夜勤時の看護職員数 (調査 A)

4 都府県	三 交 替		二 交 替			
	準夜勤	(%)	深夜勤	(%)	夜 勤	(%)
1 人	2	(1.0)	2	(1.0)	19	(6.6)
2 人	66	(31.9)	91	(44.0)	110	(38.2)
3 人	120	(58.0)	100	(48.3)	119	(41.3)
4 人以上	19	(9.2)	14	(6.8)	40	(13.9)
合 計	207	(100.0)	207	(100.0)	288	(100.0)

表 1 3 - 2 夜勤時の看護職員数 (調査 B)

国立病院機構	三 交 替		二 交 替			
	準夜勤	(%)	深夜勤	(%)	夜 勤	(%)
1 人	-	-	-	-	-	-
2 人	90	(83.3)	94	(87.0)	43	(87.8)
3 人	18	(16.7)	14	(13.0)	6	(12.2)
4 人以上	-	-	-	-	-	-
合 計	108	(100.0)	108	(100.0)	49	(100.0)

表 1 4 看護職員 1 人あたりの入院患者数

	4 都府県		国立病院機構	
	度数	(%)	度数	(%)
～2.0 未満	292	(66.4)	87	(79.8)
2.0～3.0 未満	63	(14.3)	17	(15.6)
3.0～4.0 未満	38	(8.6)	0	(0.0)
4.0～5.0 未満	10	(2.3)	0	(0.0)
無回答	37	(8.4)	5	(4.6)
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表 1 5 配属部署

	n=428		n=108	
	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
病棟	6397	(88.2)	1325	(95.6)
外来	299	(4.1)	20	(1.4)
手術室	401	(5.5)	35	(2.5)
その他	152	(2.1)	6	(0.4)
合計	7241	(100.0)	1386	(100.0)

表 1 6 配属病棟における新卒者の割合 (最大割合)

最大新卒割合	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
1 割未満	72	(22.3)	23	(23.5)
1 ～ 2 割未満	129	(39.9)	49	(50.0)
2 ～ 3 割未満	80	(24.8)	19	(19.4)
3 ～ 4 割未満	26	(8.0)	2	(2.0)
4 ～ 5 割未満	6	(1.9)	3	(3.1)
5 割以上	10	(3.1)	2	(2.0)
合 計	323	(100.0)	98	(100.0)

表 1 7 配属病棟における新卒者の割合 (最小割合)

最小新卒割合	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
1 割未満	189	(60.6)	72	(73.5)
1 ～ 2 割未満	108	(34.6)	21	(21.4)
2 ～ 3 割未満	9	(2.9)	3	(3.1)
3 ～ 4 割未満	5	(1.6)	0	(0.0)
4 ～ 5 割未満	1	(0.3)	1	(1.0)
5 割以上	0	(0.0)	1	(1.0)
合 計	312	(100.0)	108	(100.0)

表 1 8 病棟における新卒者割合の理想値

理想値	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
1 割未満	30	(8.3)	5	(5.1)
1 ～ 2 割未満	255	(70.6)	77	(78.6)
2 ～ 3 割未満	65	(18.0)	15	(15.3)
3 ～ 4 割未満	11	(3.0)	1	(1.0)
4 ～ 5 割未満	0	(0.0)	0	(0.0)
合 計	361	(100.0)	98	(100.0)

表19-1 教育環境（調査A）

図書	4都府県	(%)
十分整備されている	45	(10.2)
まあまあ	191	(43.4)
不十分である	182	(41.4)
無回答	22	(5.0)
合計	440	(100.0)

インターネット	4都府県	(%)
十分整備されている	63	(14.3)
まあまあ	140	(31.8)
不十分である	212	(48.2)
無回答	25	(5.7)
合計	440	(100.0)

技術演習室	4都府県	(%)
十分整備されている	8	(1.8)
まあまあ	67	(15.2)
不十分である	340	(77.3)
無回答	25	(5.7)
合計	440	(100.0)

表19-2 教育環境（調査B）

図書	国立病院機構	(%)
十分整備されている	8	(7.3)
まあまあ	43	(39.4)
不十分である	55	(50.5)
無回答	3	(2.8)
合計	109	(100.0)

インターネット	国立病院機構	(%)
十分整備されている	12	(11.0)
まあまあ	26	(23.9)
不十分である	69	(63.3)
無回答	2	(1.8)
合計	109	(100.0)

技術演習室	国立病院機構	(%)
十分整備されている	1	(0.9)
まあまあ	10	(9.2)
不十分である	96	(88.1)
無回答	2	(1.8)
合計	109	(100.0)

表20 新卒看護職員研修（他施設との連携）

他施設との連携	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
他の医療施設と連携して研修している	39	(8.9)	7	(6.4)
日本看護協会等の研修を利用している	194	(44.1)	32	(29.4)
連携はしていない	178	(40.5)	66	(60.6)
無回答	29	(6.6)	4	(3.7)
合計	440	(100.0)	109	(100.0)

表 2 1 新卒看護職員研修（他の医療施設との連携） ※複数回答

	n=39		n=7	
	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
新卒看護職員研修に関する情報交換	19	(48.7)	4	(57.1)
他施設の新卒職員を貴施設の新人職員研修に受入れている	8	(20.5)	0	(0.0)
他施設の看護職員を新人の指導者育成の研修に受入れている	5	(12.8)	1	(14.3)
他施設の看護職員を新人研修の講師として依頼している	4	(10.3)	1	(14.3)
自施設の新卒職員を他施設の研修に参加させている	16	(41.0)	2	(28.6)
自施設の新卒職員の指導者を他施設の指導者研修に参加	5	(12.8)	1	(14.3)
自施設の看護職員を他施設の新入職員研修の講師として派遣	3	(7.7)	0	(0.0)
その他	21	(53.8)	2	(28.6)
無回答	1	(2.6)	-	-

※「その他」の連携について（4 都府県）

- 法人内の施設の新卒職員に対し、集団で研修を行っている。
- 法人内で企画している研修への参加。
- グループ病院のため全新卒者を集合させ教育している年4～5回。
- グループ内で連携できる施設が○施設あるので看護部長会で計画を一本化し研修を実施している。
- グループ病院内合同研修あり。慢性期病院の急性期、救急看護研修を受け入れている。
- グループ病院なので、院内と、本部プログラムがある。
- グループ病院のため、本部看護部研修に参加している。
- 本院の研修に希望者が参加している。
- 連携して教育カリキュラムを検討している。
- 合同で共通する研修を行なっている。
- 経営が同じであることから部分的に公開されており参加出来るシステムになっている。
- 合同研修を行っている。
- 市立市民病院教育担当副部長会で、月1回情報交換している。
- 市立市民病院では、新卒看護職員数が少ないため、H16年度は救急研修を受け入れた。
- 市病院連絡協議会看護部長会で施設内に指導者が少ない所は、教育の充実した病院に、課題達成に必要な企画があれば参加できるようにしている。

看護協会が実施している研修において、協会での教育計画及び、支部での教育計画の中でグループ討議やシンポジウムを通して意見交換を行い、指導又は支援体制を整えている。実習受け入れ校の教員に新入職予定者の研修（入職前研修）の講師を依頼している。

○○大学の職員研修と共に参加させている。

院内研修の一部を公開講座としている。又、自主学習会などにも参加している。

近隣施設との合同研修の実施。

県にある10病院全体で、新人等の教育を実施している。

※「その他」の連携について（国立病院機構）

- 国立病院機構の病院で行う新人研修に一部参加している。
- 近隣の施設と研修産か参加をよびかけあっている。

表22 新卒看護師の病棟ローテーション

	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
行っている	20	(4.5)	2	(1.8)
行っていない	380	(86.4)	105	(96.3)
無回答	40	(9.1)	2	(1.8)
合計	440	(100.0)	109	(100.0)

※ローテーション内容の自由記載（4都府県）

一般病床と療養病床。
 内科（6ヶ月）、外科（6ヶ月）。
 不定期であり、期間部署等個人の問題や病棟の状況に応じて行う場合がある。
 3ヶ月毎に外来と病棟。
 内科、外科病棟を中心に8ヶ月位で行っている。
 1～2ヶ月後病棟を固定。
 各部署を4w～6w間隔でローテーションしている。
 外来・病棟を1ヶ月で行っている。
 一般病棟と回復期病棟を7～10月にかけて1人につき1か月ずつ行なう。
 本人の希望により、一般病棟、回復リハビリテーション病棟へ。
 外来と病棟1ヶ所。病棟で1ヶ月くらいしてから外来も覚えてもらう。
 急性期病棟、回復期病棟をそれぞれ5日間。及びICUを2日間。希望者は、健康期（産科病棟）を1日、ローテーション。
 10～11ヶ月。2カ所。3年間に2部所の経験をさせている。
 助産師は6ヶ月～1年。
 病棟、混合2単位であり、1年間の計画と個人の習熟度に合せて評価・確認し、個別指導で行っている。

勤務場所が不相当と判断した場合、所属長と本人との話し合いの上で実施したことがある。定例には実施していない。職場適応状況に応じ希望者のみ、あるいはローテーションの必要性があると判断した場合に実施している。1回のみ。
 希望した勤務場所に配属しても、不適応な状況に陥ることがあり、本人と面接、外来等他部署へローテーションを行うことにより離職防止につながっている。

※ローテーション内容の自由記載（国立病院機構）

1年間を目途に、一般、結核、神経筋の3か所をローテーション
 一般病棟5カ所を2～3か月でローテーション

表 2 3 a 看護部門の教育担当者

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
いる	362	(82.3)	92	(84.4)
いない	68	(15.5)	17	(15.6)
無回答	10	(2.3)	-	-
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表 2 3 b 専任・併任別

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
専任	79	(21.8)	2	(2.2)
併任	281	(77.6)	86	(93.5)
その他	2	(0.6)	4	(4.3)
無回答	-	-	-	-
合 計	362	(100.0)	92	(100.0)

表 2 4 各病棟の教育担当者

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
いる	323	(73.4)	79	(72.5)
いない	102	(23.2)	29	(26.6)
無回答	15	(3.4)	1	(0.9)
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表 2 5 教育担当者がいる病棟の割合

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
1～ 25%	3	(0.9)	0	(0.0)
25～ 50%	4	(1.2)	0	(0.0)
50～ 75%	10	(3.1)	3	(3.8)
75～ 100%	272	(84.2)	69	(87.3)
無回答	34	(10.5)	7	(8.9)
合 計	323	(100.0)	79	(100.0)
教育担当者がい る病棟の割合	1881/2551 病棟	74.0%	517/721 病棟	71.7%

表 2 6 プリセプターの有無

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
プリセプター	307	(69.8)	105	(96.3)
プリセプター以外の 実地指導者	36	(8.2)	0	(0.0)
いない	69	(15.7)	1	(0.9)
無回答	28	(6.4)	3	(2.8)
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表27a プリセプター1人が担当する新卒看護職員数

	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
1人	252	(82.1)	100	(95.2)
2人	48	(15.6)	5	(4.8)
3人	2	(0.7)	0	(0.0)
無回答	5	(1.6)	-	-
合計	307	(100.0)	105	(100.0)

表27b プリセプター以外の実地指導者1人が担当する新卒看護職員数

	4都府県	(%)
1人	13	(36.1)
2人	9	(25.0)
3人	1	(2.8)
4人	1	(2.8)
無回答	12	(33.3)
合計	36	(100.0)

表28 実地指導者の配置 ※複数回答

	n=343		n=105	
	4都府県	(%)	国立病院機構	(%)
新卒職員1人に対し継続的指導を行う1人の指導者を配置	223	(65.0)	79	(75.2)
各新卒看護職員に対し複数の看護師を指導者として配置	56	(16.3)	16	(15.2)
チームナーシングにおける看護職員全体の中で、日々配置	101	(29.4)	25	(23.8)
前記3つの方法を新卒者就職後の期間に応じて組み合わせ	71	(20.7)	15	(14.3)
その他	58	(16.9)	10	(9.5)

表 29 実地指導者を選ぶ基準 ※複数回答

	n=343		n=105	
	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
臨床経験 3 年目以上の看護職員	299	(87.2)	92	(88.5)
学生実習指導の経験がある看護職員	60	(17.5)	16	(15.4)
助言・支援ができる看護職員	175	(51.0)	61	(58.6)
院内外の新卒者教育研修を受講した看護職員	96	(28.0)	15	(14.4)
その他	51	(14.9)	10	(9.6)

※「その他」の自由記載（4 都府県）

<経験年数・年齢>

プリセプティとあまり年令が離れていない。

新人の気持ちになりやすい、あまり年令がかけ離れていない人。3～4年目としている。

新卒の人数により卒後4年目の適任者がいない場合は、4、5年から少し上のスタッフが担当。

いくつかのグループ分けをして2年目から参加し、最終チェックはそのグループの長が責任を持つ。

プリセプターは、臨床経験3年目以上の看護師が担当する。アドバイザーは、経験（臨床）

4年目以上の助言・支援ができる看護師学生実習指導の経験もある主任、看護師長が指導を担当する。

卒後2～3年の職員。援助者として、主任、副主任。

卒後2年目と、3年以上の指導できる職員と統括に副看護師長が教育を担当している。

プリセプターは、プリセプティの身近な存在の3～4年目としているが、サポートシステムとしてプリセプターを指導できるアソシエートを配置。

<指導者研修+条件>

2年目にプリセプター研修を受講者で、今年度現任@研修生。

2～3年目でプリセプター研修終了者。

3年目（就職して）をプリセプターとする。

卒後3年目迄は、本人の研修課題があるため大部分の部署で4年目以降を選出している。

経験4年目程度。プリセプター育成講習受講終了。指導が好きであること。

厚生労働省、東京都の研修を受けた者。

毎年臨床指導者認定講習会に積極的に受講し、各病棟に2名宛配置できるよう養成している。

病院内・外でプリセプターシップの研修を終了したもの。

リーダー研修修了者。

3年目の院内研修を終了した4～5年目が対象。所属に該当者がいない場合は、支援できるスタッフを選んでいる。

教育担当者、婦長とで3年目以上でプリセプターの研修Iを受けた人の中で人選している。

看護研修センターの臨床指導者研修会の履修者。

第2プリセプターは、臨床指導者研修会修了者。

プリセプターになる人達に院内での研修と院外研修を受講。

院内プリセプター研修を受講し、プリセプターの役割と意義を理解し、主体的に取り組める職員。

協会のプリセプター研修を受講した看護師。

プリセプターの研修を受講してから、プリセプターとして任命している。

3年目以上の者を選定し、プリセプター勉強会を受けさせている。

プリセプター事前研修を受けてから、プリセプターを担う。

臨床経験3年目。プリセプター研修終了者。

臨床実務指導者講習会を終了した者。e t c。

臨床経験3年目以上で指導能力があると判断した看護師にプリセプター役割等研修を受けさせて、動機付けしてから始めている。

基本的には3年目以上を対象にし、院内で研修を実施している。

なるべく実習指導者講習会に出席、終了した人をあてている。

副師長、実習者養成講習会受講者。

2ヶ月間の臨床実習指導者講習会を受講した職員。

看護協会主催の実習講習会終了後の職員を主としている。

経験3年目以上で院内のプリセプター研修に受講している者。プリセプターを担って行く意志（気持）を持っている。

<適性>

経歴、実力、性格をみて選んでいる。

よき相談相手になってくれる。又共に学んでいけそうな看護師。新人の気持にそえる看護師。基本的看護技術を習得している。指導する熱意のある職員を選んでいる。

3年目で助言、指導の出来るナース。

クリニカルラダーレベル「1」をクリアしている。日常業務が円滑に遂行できる能力を身につけている。新人の手本となる行動を身につけている。新人に共感できる。必要時師長に相談し、指導・支援を受けることができる。

指導力のあるスタッフを選。

3年目以上の看護師がプリセプターになることが多い。しかし、状況により助言、支援できる看護職員を選考している。

<推薦等>

病棟部長の推薦者。

リーダーの経験者、及び学生指導：後輩指導の経験者、もしくは師長が同等の能力を有していると認めた臨床経験年数5年以上の者。

管理職としての要件を満たしうる人材を考慮している。

3年目以上で、新人の成長に寄すると考える者を病棟師長が選抜。

<役職>

病棟主任が担当している。

サブリーダー。

チームナーシングのその日のリーダーナース。

<その他>

1～4までのいずれかに適応している人。

プリセプターの選考基準を一応上げている。

臨床経験の条件を明確にすると、該当者不在の病棟が発生するため、条件は大きくとらえている。

基本的実施指導（プリセプター）は、職場になじむこと。基本的看護技術を学ぶようにしている。よってかかわりは多い。

最初の1週間は1：1で指導する。

3ヶ月間は卒後3年目NSがマンツーマンで対応。卒3の指導には中堅NSがついている。

※「その他」の自由記載（国立病院機構）

実践力、指導力のある職員。配属部署に1年以上の経験ある方を目安に人選。

3年目以上で助言、支援できる看護師。（基本的には3年目）

5年目以上の人を選んでいるが決めていない。4年までは継続教育に入れている。

新卒者でも30才～40才代と年齢が高い場合は、年齢に応じて5～6年目を担当者としていたりしている。

対人関係を持つのに上手な人。

指導者としてだけでなく相談できる看護職員。

育成したい人材に割り振ることもある。

表 3 0 実地指導者のための研修プログラム

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
ある	210	(61.2)	74	(70.5)
院外の研修を活用	69	(20.1)	10	(9.5)
ない	56	(16.3)	16	(15.2)
無回答	8	(2.3)	5	(4.8)
合 計	343	(100.0)	105	(100.0)

表 3 1 新卒看護職員の夜勤開始時における指導

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
専任で付く	314	(71.4)	57	(52.3)
付かない	94	(21.4)	46	(42.2)
無回答	32	(7.3)	6	(5.5)
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表 3 2 - 1 新卒看護職員の夜勤開始時における実地指導者専任指導 (調査 A)

4 都府県	n=165		n=166		n=177	
	三 交 替		三 交 替		二 交 替	
	準夜勤 (%)	深夜勤 (%)	準夜勤 (%)	深夜勤 (%)	夜 勤 (%)	夜 勤 (%)
1 回	26 (15.8)	26 (15.7)	26 (15.7)	26 (15.7)	18 (10.2)	18 (10.2)
2 回	78 (47.3)	79 (47.6)	79 (47.6)	79 (47.6)	71 (40.1)	71 (40.1)
3 回	40 (24.2)	41 (24.7)	41 (24.7)	41 (24.7)	65 (36.7)	65 (36.7)
4 回	16 (9.7)	15 (9.0)	15 (9.0)	15 (9.0)	17 (9.6)	17 (9.6)
5 回以上	5 (3.0)	5 (3.0)	5 (3.0)	5 (3.0)	6 (3.4)	6 (3.4)
合 計	165 (100.0)	166 (100.0)	166 (100.0)	166 (100.0)	177 (100.0)	177 (100.0)

表 3 2 - 2 新卒看護職員の夜勤開始時における実地指導者専任指導 (調査 B)

国立病院機構	n=55		n=55		n=19	
	三 交 替		三 交 替		二 交 替	
	準夜勤 (%)	深夜勤 (%)	準夜勤 (%)	深夜勤 (%)	夜 勤 (%)	夜 勤 (%)
1 回	34 (61.8)	34 (61.8)	34 (61.8)	34 (61.8)	13 (68.4)	13 (68.4)
2 回	17 (30.9)	17 (30.9)	17 (30.9)	17 (30.9)	5 (26.3)	5 (26.3)
3 回	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
4 回	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (5.3)	1 (5.3)
5 回以上	2 (3.6)	2 (3.6)	2 (3.6)	2 (3.6)	-	-
合 計	55 (100.0)	55 (100.0)	55 (100.0)	55 (100.0)	19 (100.0)	19 (100.0)

表 3 3 新人の到達度評価リストの有無

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
ある	363	(82.5)	105	(96.3)
ない	63	(14.3)	4	(3.7)
無回答	14	(3.2)	-	-
合 計	440	(100.0)	109	(100.0)

表 3 4 新卒看護師の教育プログラム

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
ある	345	(78.4)	107	(98.2)
ない	65	(14.8)	0	(0.0)
無回答	30	(6.8)	2	(1.8)
合 計	440	(100.0)	108	(100.0)

表 3 5 新人看護師の集合研修日数

	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
1～3日	37	(10.7)	6	(5.6)
4～6日	70	(20.3)	33	(30.8)
7～10日	123	(35.7)	52	(48.6)
11～15日	52	(15.1)	8	(7.5)
16～20日	24	(7.0)	4	(3.7)
21～30日	10	(2.9)	1	(0.9)
31～40日	2	(0.6)	1	(0.9)
無回答	27	(7.8)	2	(1.9)
合 計	345	(100.0)	107	(100.0)
平 均	9.3		8.2	

表 3 6 a) 注射業務の手順・技術の研修

	n=345		n=107	
	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
院内全体での集合教育研修	230	(66.7)	89	(83.2)
病棟での集合教育研修	152	(44.1)	46	(43.0)
実際の業務を通して指導	268	(77.7)	84	(78.5)
研修は行っていない	2	(0.6)	1	(0.9)

表 3 7 b) 点滴業務の手順・技術の研修

	n=345		n=107	
	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
院内全体での集合教育研修	229	(66.4)	88	(82.2)
病棟での集合教育研修	151	(43.8)	47	(43.9)
実際の業務を通して指導	270	(78.3)	88	(79.4)
研修は行っていない	3	(0.9)	1	(0.9)

表 3 8 c) 注射薬の知識の研修

	n=345		n=107	
	4 都府県	(%)	国立病院機構	(%)
院内全体での集合教育研修	174	(50.4)	59	(55.1)
病棟での集合教育研修	147	(42.6)	37	(34.6)
実際の業務を通して指導	269	(78.0)	85	(79.4)
研修は行っていない	3	(0.9)	1	(0.9)